

2023

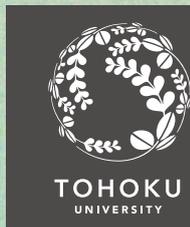


さあ、新しいインターフェイスの可能性を開け
世界の歯学をリードする独自の教育カリキュラムで口腔健康科学を学ぶ

東北大学歯学部



*Tohoku University
School of Dentistry*



始めよう、君たちのグロー



Welcome 「杜の都・仙台」の魅力 SENDAI

東北大学が位置する「杜の都・仙台」は、緑豊かな街並みに東北唯一の政令指定都市としての都市機能が充実しています。また、ちょっと足を延ばせば、豊かな自然にふれられるのも魅力です。

FOOTWORK 交通

高速バス、
新幹線、飛行機
の便利な
アクセス

仙台は高速バス（東京から約6時間・約4,000円～）、新幹線（東京から約1時間半・約11,000円）など、高速交通網に恵まれています。



バルインターフェイスの未来を。

口(くち)とは何か、考えたことはありますか？

外界と私たちの内なる世界(内界)をつなぐ「入り口」。外界から食物を摂り、他人とコミュニケーションを取る…私たちは、口を「インターフェイス」として外界や他者と接しているのです。

口の機能が健全であることが、個々人が生物学的、社会的に健康であるための基盤です。人生百年時代、心身ともに健康で質の高い人生を享受し続ける時間、すなわち「健康寿命」を延ばすために、歯学・歯科医療が果たす役割は極めて大きいと言えるでしょう。

東北大学歯学部は、1965年(昭和40年)4月、日本で3番目の歯学部として誕生しました。理想とする歯学教育研究機関を目指し、「一口腔一単位」「全人的歯科医療」「考える歯科医師」を理念に掲げ、優れた歯科医師、歯学教育研究者の育成を行ってきました。「一口腔一単位」は、口腔全体を診た治療計画に基づく歯科医療の理念として全国の歯学部に流布しており、そして「全人的歯科医療」は単に歯科医療に終わらない、人そのもの、さらには社会全体の健康を目指す医療としての理念であり、現在の多職種・多機関連携による包括的医療に繋がるものとなっています。

国際化も進んでおり、歯学教育研究のアジア拠点として、世界有数の歯学拠点校との国際連携による教育研究を実践しており、学部生の1割弱、大学院生の1/4は留学生です。国籍に関係なく、同じ歯学を志す学生として切磋琢磨する環境が日常となることは、今後、グローバル社会での活躍を期待される若い学生諸君にとって大きな魅力になると思います。短期留学プログラムも豊富であり、気軽に海外交流を経験することが可能です。

もとより東北大学は、東京帝国大学、京都帝国大学に次いで日本で3番目に設置された旧帝国大学を前身とし、現在はこれらの旧帝国大学とともに指定国立大学となった総合大学です。多くの学術的資産と優秀な人材に恵まれ、世界に誇る業績を創出し続けており、日本の将来の礎(いしずえ)と言っても過言ではありません。私たちは、この伝統と実力ある東北大学に設置された歯学部・歯学研究科として、誇りと使命を胸に、教育研究に邁進しています。



東北大学
歯学部長

高橋
信博

HISTORY

歴史

広瀬川の清流と緑に恵まれた仙台は、約400年前に伊達政宗が作りあげた62万石の城下町。伊達藩の遺産である仙台城址、瑞鳳殿、輪王寺などが点在しています。



CORE-TOWN

タウン散策

仙台的ショッピング&タウン散策には、一番町界隈がおススメ。牛タン、冷やし中華(仙台が発祥の地)、ずんだなどの仙台グルメも要チェック。

FESTIVAL

祭り

5月	仙台・青葉まつり	仙台七夕まつり	8月
9月	定禅寺ストリートジャズフェスティバル	SENDAI 光のページェント	12月

CULTURE

市民文化

仙台は「学都」の誇り高く、文化が薫る都市として、美術館や博物館の文化施設が充実。中でも、文化交流のステージ「せんだいメディアテーク」の活動ぶりは注目の。世界的な音楽コンクールの開催はもとより、交流イベント、展覧会など、市民の文化活動が盛んです。



目次

CONTENTS

学部長あいさつ	→03
古くから続く日本の歯科医療、今世界が注目する最先端の歯学を学び、口腔科学者・歯科医師を育成します。	→04
インターフェイス口腔健康科学とは、何か。	→06
歯学部のカリキュラム	→07
1、2、3年次のカリキュラム	→08
4、5年次のカリキュラム	→09
5、6年次のカリキュラム	→10
東北大学病院	→11
Campus Life —歯学部生のキャンパスライフ—	→12
ホンネで語る。OB座談会	→14



古くから続く日本の歯科医療、 今世界が注目する 最先端の歯学を学び、 口腔科学者・歯科医師を 育成します。

東北大学歯学部で求める人物 (アドミッションポリシー)

歯学部の教育目標は、単に歯科医師の養成にとどまらず、論理的な思考力を身につけ、各分野で指導的立場となる人材を育成することにある。歯科医学の知識や技能を十分に修得できる基礎学力を有する人、問

題解決や知識追求に対する意欲を持ち常に前向きに考え行動する資質を有する人、幅広い視野と柔軟な感性を有する人、医療に携わるものとして豊かな人間性を備えた人を求めている。



世界と日本の歯学の歴史

18世紀、ヨーロッパで“近代歯科医学の父祖”といわれるピエール・フォーシャルによって総入れ歯や歯石除去などの近代的な歯科治療が行われ、19世紀に入るとアメリカではほぼ現代に近い歯科医療が始まったといわれます。ちなみに、アメリカにはジョージ・ワシントンの義歯が残さ

れていますが、日本では、それより古い16世紀後半につくられた木床義歯が、発見された最古の義歯として残されています。それを見る限り、日本の歯科医療技術が高い水準にあったことがうかがわれます。

1854年に日米和親条約が結ばれ、下田、函館が開港されるとともに外国人が渡来するようになりました。1860年には、アメリカ人ウィリアム・クラーク・イーストレイキーが横浜で歯科医院を開業。アメリカの歯科医

師を通じて、欧米の近代的歯科医療に直接触れることができるようになりました。

そして1800年代末から1900年代初めにかけて、日本でも歯科医学校が設立され、歯科医師法が整備され、歯科医学会、歯科医師会が発足し、歯学が確立されたのです。黎明期、野口英世は高山歯科学院で給仕をしながら学び、後には講師となって講義を行ったというエピソードも残っています。

1965年、 東北大学歯学部発足

このような流れの中では、1965年に発足した東北大学歯学部の歴史は比較的新しいものです。しかし、その誕生、発展は「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」の理念のもと、独自の

ものでした。この理念を診療体系に持ち込むとなると、様々な専門的視点からの診断・治療方針を総合的に取捨選択しなければなりません。欧米には、例えば「I have four dentists」という言葉があります。歯科の専門化が進み、「4」は「プライマリーケア（口腔ケア）」「口腔外科」「補綴（歯の修復）」「エンドデンティスト（神経の

処置）」それぞれの専門歯科医を指しています。つまり、歯学とは、様々な視点から顎口腔領域の健康と疾患を理解し、生体全体の中に位置づけ、その予防、診断、治療の方法を開発し、健康を維持増進させる学問なのです。東北大学歯学部の卒業生は、考える歯科医となり、最善の診療・研究・教育に日夜邁進しています。

参考

歯学の歴史と東北大学歯学部の歴史を詳しく知るには……

▶「歯の歴史館」(1981年 日本医療文化センター発行)

▶日本歯科医師学会ホームページ <http://www.jsdh.org/>

▶東北大学歯学部同窓会ホームページ <https://www.tohoku-dent-alum.jp/>

近代歯科医学と日本の歯科医学の歩み

- 1723 フランスで、ピエール・フォーシャル(近代歯科医学の父祖といわれる)が論文『Le Chirurgien Dentist』発表
- 1728 フォーシャル、上顎総入れ歯を製作
- 1840 アメリカに、世界最初の近代的な歯科医学校ボルチモア歯科医学校誕生
- 1844 アメリカで、笑気を用いた全身麻酔下での抜歯を施行
- 1846 アメリカで、エーテル麻酔を用いて口腔外科手術を施行
- 1860 アメリカ人ウィリアム・クラーク・イーストレイキー、横浜で歯科医院を開業
アメリカの歯科医療に直接触れることができるようになった
- 1876 瑞穂屋、わが国で初めて歯科器材をアメリカから輸入
国内でも、歯科器械の生産始まる
- 1878 1872年に私費留学した高山紀斎、アメリカで歯科医師開業試験に合格し、帰国
- 1881 高山紀斎、わが国最初の歯科専門書『保歯新論』発行
- 1883 医術開業試験規則が制定され、歯科が専門科目に
アメリカのミラー、「化学細菌説」を発表
- 1888 日本最初の歯科医学校である東京歯科医学校設立(翌年閉校)
- 1890 高山歯科医学校創立(1900年に東京歯科医学院に改称、1946年に東京歯科大学に改組)
- 1891 アメリカのブラック、歯垢がむし歯の原因であることを発見
- 1893 歯科医会発足(1926年、日本歯科医師会と改称)
- 1902 日本歯科医学会発足
- 1903 東京帝国大学医学部に歯科学教室開設
- 1906 歯科医師法成立
- 1911 歯科医学専門学校設立
- 1916 歯科医師法改正、医師の歯科医療行為を制限
- 1928 「ムシ歯予防デー」実施
東京高等歯科医学校(現、東京医科歯科大学)設立
国の歯科医師養成教育のスタート
- 1946 GHQの指示のもと歯科教育審議会発足
- 1947 歯科医師国家試験実施
- 1948 「歯科教育基準案」決定

歯学部・歯学研究科の歩み

- 1965 東北大学歯学部開設:「考える歯科医師の育成」「一口腔一単位」「全人的歯科医療」の理念提唱
- 1967 東北大学歯学部附属病院開院
- 1972 東北大学歯学研究科開設
- 1975 附属歯科技工士学校設置
- 1993 山本肇名誉教授「レーザー照射による齶触予防その他歯科応用に関する研究」で学士院賞
- 2000 東北大学歯学研究科で、大学院重点化を実施:「考究心」「科学心」をもつ指導的・中核的人材の育成を理念として提唱
- 2002 東北大学歯学研究科で、「インターフェイス口腔健康科学」を提唱
- 2003 東北大学医学部附属病院と歯学部附属病院の組織上の統合
東北大学病院を開設
- 2004 わが国唯一の歯学研究科修士課程を設置
歯科学領域以外のキャリアの人材に口腔科学の専門教育を実施
- 2005 第1回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム開催
- 2007 歯科病床、手術室の移転により東北大学病院附属歯科医療センターと改称
文部科学省「生体バイオマテリアル高機能インターフェイス科学事業」開始
- 2008 附属歯科医療センターにインプラント外来設置
- 2009 歯学部歯学研究科講義棟リニューアル完成
- 2010 日沼頼夫名誉教授、文化勲章受章
東北大学病院外来診療棟に歯科部門として附属歯科医療センターが移転・統合
- 2011 歯学イノベーションリエゾンセンターの設置
- 2012 歯学部・歯学研究科臨床研究棟リニューアル完成
- 2013 環境歯学研究センターの設置
歯科法医情報学分野の設置
- 2014 臨床疫学統計支援室の設置
- 2015 先端再生医学研究センターの設置
- 2017 先端フリーラジカル制御学共同研究講座設置
- 2021 附属歯科技工士学校閉校



MESSAGE

在学生からの
メッセージ

歯学部 6年
井口 槇さん

歯学部では、「歯・口」のことだけでなく、全身についても学びます。それは、口の健康は全身の健康と密接に関係しているからです。歯学についての講義は入学直後からはじまります。最新の歯学の概要に触れる「歯学概論」と歯科診療の現場を体験する「歯科臨床入門」です。これらの講義を経て1年次の段階から歯科医師になるための意識

を高めます。一方で1年次では、主に川内キャンパスで他学部の学生とともに全学教育科目について学び、広い視野を持つことができます。2年次からは、星陵キャンパスで歯学について学ぶ機会が増えていきます。3、4年次からは臨床に近い実習がはじまり、むし歯の治療や義歯(入れ歯)の製作などを行います。歯学部は他の学部比べて人数

が少なく同じ講義を受けることが多いので、同級生との繋がりが強いのも魅力のひとつです。また、歯学部生のみで構成されている部活やサークルもあり、先輩や後輩との繋がりが強く、勉強面や生活面でも困ったことがあれば、気軽に相談できるといったことも良い点だと思います。ぜひ私たちと一緒に歯学を学んでみませんか?

インターフェイス口腔健康科学とは、何か。

① 「インターフェイス口腔健康科学」の誕生

これまで歯学(歯科医学)として認識されてきた学問体系は、口腔疾患の治療論が主体であり、その病因論や根本となる基礎歯学はむしろ細分化され、体系化からはほど遠いものでした。2002年、東北大学大学院歯学研究科は、細分化されてしまった個々の専門分野を繋ぎ、口腔科学として体系化、すなわち再構築するために、「インターフェイス口腔健康科学」を提唱しました。口腔は、「歯・粘膜・骨・筋等の口腔組織

(生体)」、「口腔に寄生する微生物(パラサイト)」、「生体材料(バイオマテリアル)」の3つのシステムから成り立ち、この3システムに咬合力に代表される「生体応力(メカニカルストレス)」が加わるのが特徴です。「インターフェイス口腔健康科学」とは「健全な口腔機能は、システムとシステムの接するところ、すなわちインターフェイスが生物学的および生体力学的に調和することで成り立っており、う

蝕や歯周病、顎関節症などの口腔疾患はこれらシステム間インターフェイスの破綻によって生ずる「インターフェイス病」として捉えられる」という新たな概念に立脚するものです。

加えて、口腔そのものが、体内と外界とのインターフェイスであり、誤嚥性肺炎や消化管感染症等の口腔関連疾患もまたシステム間インターフェイスの破綻に起因すると理解されます。

② 「口腔のインターフェイス」から「学問のインターフェイス」、そして「社会のインターフェイス」へ

この概念は、口腔科学・歯科医療・口腔保健の領域を網羅するだけではなく、医学、工学、材料学、農学、薬学など多岐にわたる学問領域に通ずるものであり、「インターフェイス口腔健康科学」の実践によって歯学研究のさらなる推進、そして関連領域との学際的研究の活発化が可能となります。2007年には文部科学省から「生体—バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業」が認められ、東北大学金属材料研究所等とともに、インターフェイスの制御を目指した新しいバイオマテリアルの研究・開発と臨床応用に取り組みました。2012年からは「生物—非生物インテリジェントインターフェイスの創成事業」が後継として実施されました。これらは、既存の学問分野を接合し新しい学問を創成すると

いう「学問のインターフェイス」の具現化なのです。

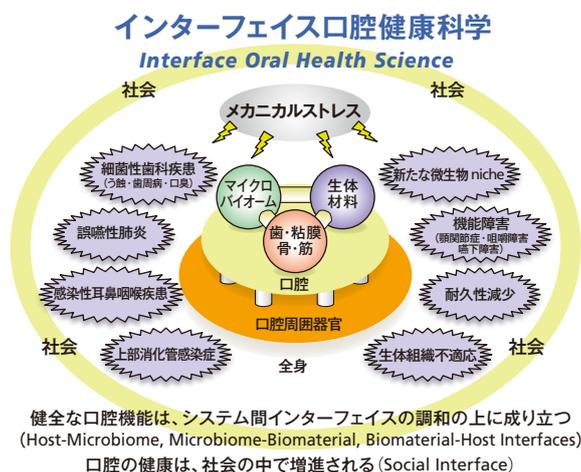
さらに、健全な口腔機能を地域社会や国際社会で実現するためには、地域社会や国際社会との双方向コミュニケーションが不可欠です。すなわち、地域住民の口腔健康状況を把握しそこにある問題点を解決し地域に還元すること、海外の口腔保健状況を把握し必要なことを導入するとともに、海外と連携し日本の研究成果を国際社会に還元することが必要なのです。

本研究科は、2011年に「歯学イノベーションリエゾンセンター」を設置、その中に「国際連携部門」と「マルチセクション地域連携部門」を置き、それぞれを海外との連携および地域との連携の要としました。国際連携部門を通して、米国(ハーバ

ード大学)、カナダ(プリティッシュコロンビア大学)、英国(キングスカレッジロンドン大学)、スウェーデン(ウメオ大学)、フィンランド(オウル大学)、アジア(北京大学、四川大学、上海交通大学、天津医科大学、大連市口腔医院、福建医科大学、香港大学、中国；ソウル大学、全南大学校、延世大学校、韓国；国立台湾大学、国立陽明大学、台湾；チュラロンコン大学、プリンスオブソクラ大学、コンケン大学、タイ；アイルランガ大学、インドネシア；VSデンタルカレッジ、インド；モンゴル国立医療科学大学、モンゴル)、オセアニア(シドニー大学、オーストラリア)の基幹校と国際学術提携を結んでいます。これら2つの部門は「地域社会・国際社会とのインターフェイス」として、大きな役割を果たしているのです。

③ 「インターフェイス口腔健康科学」の世界への発信

「インターフェイス口腔健康科学」の概念は、現在、次世代の歯学・口腔科学として国内外に広く認められています。2005年には仙台にて「第1回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム(International Symposium for Interface Oral Health Science: IS-IOHS)」を開催し、国内外から多くの研究者が集まりました。その成果は英文書籍としてまとめられ世界に発信されています。以降、本シンポジウムは約2年毎に開催され、2016年には第6回目を迎えました。各シンポジウムでは、仙台の地に加え、ハーバード大学フォーサイス研究所(米国)、北京大学(中国)、ソウル大学(韓国)、シドニー大学(オーストラリア)等と共催で、海外でサテライトシンポジウムを開催しており、「インターフェイス口腔健康科学」はますますその広がりを示しています。その基盤は、歯学・口腔科学の独自性と他の学問領域との普遍性を持つ独創的な研究への希求、そこに集う研究教育者と大学院生の情熱、そして国際的・学際的・融合的な研究への指向という、歯学研究科が持つ特質にあるのです。



(Curriculum)

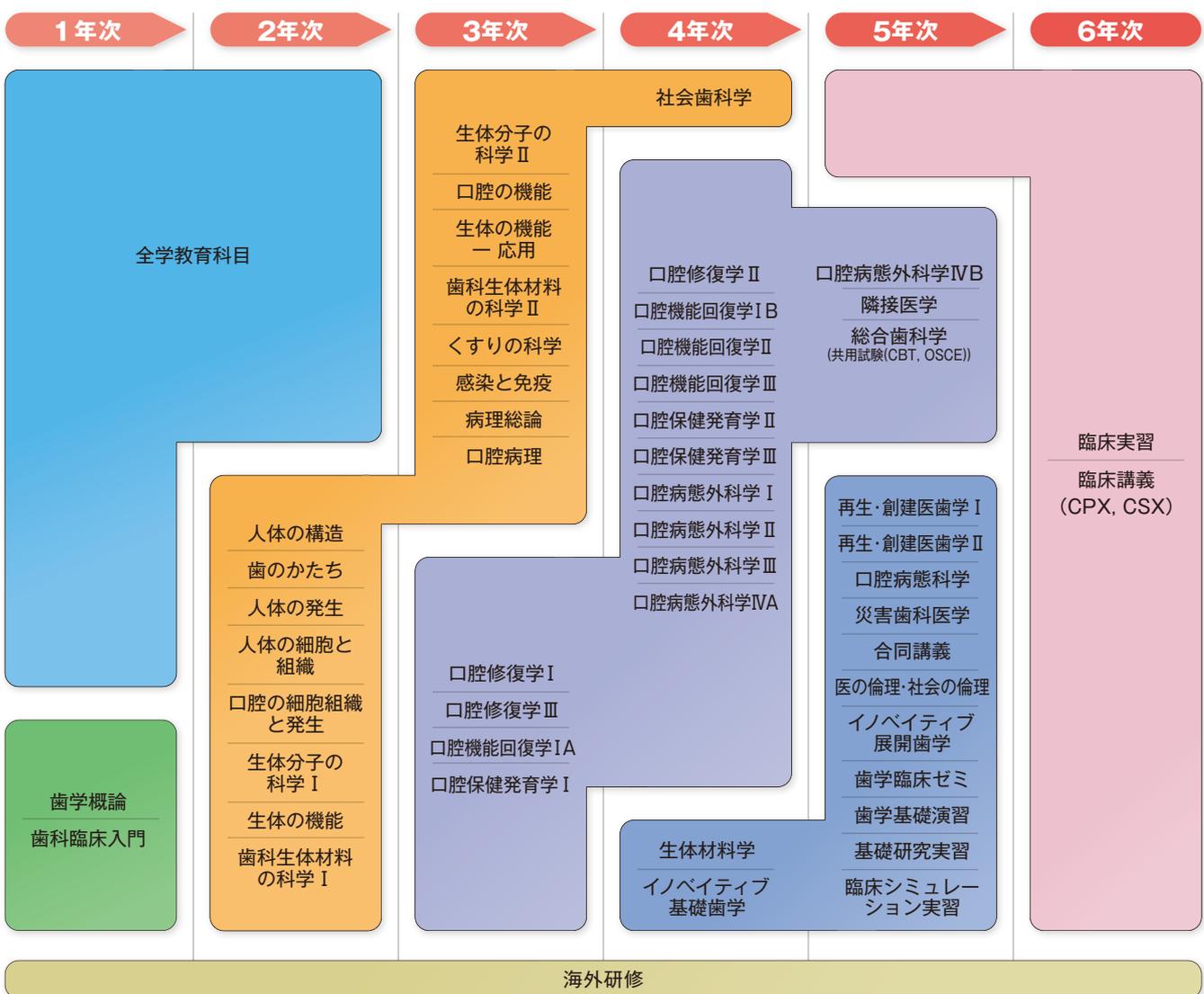
歯学部のカリキュラム

6年間で歯科医師として必要な知識と臨床技術を修得します。

本学部のカリキュラムは、早期に歯学・歯科臨床の概要を学び歯学生としての自覚を涵養する「導入科目」、歯科医師として必要となる基礎歯学と臨床歯学を学ぶ「コア科目」、東北大学歯学部独自の科目で大学院進学や高度専門職への準備となる「アドバンス科目」、そして歯科臨床の実体験を通して学ぶ「臨床実習科目」からなります。本カリキュラムは、臨床実習前に実施される全国共通の「共用試験」に対応しているばかりではなく、歯科医師国家試験にも充分対応しています。さらに、「アドバンス科目」には大学院を先取りした「プレ大学院科目」として「歯学基礎演習」と「基礎研究実習」が含まれており、歯学部卒業時に、既に大学院で学ぶ考え方も身に付くように工夫されています。



6年間のステップ



■ 導入科目
 ■ 全学教育科目
 ■ コア科目[基礎歯学]
 ■ コア科目[臨床歯学]
 ■ アドバンス科目
 ■ 臨床実習科目

※学部専門教育科目において、別途教材費用が必要になります。詳細は入学後にお知らせします。

1、2、3年次のカリキュラム

東 北大学歯学部の学生は、1、2年生で、広い視野と柔軟な思考力をもった歯科医師になるために、人間形成の根幹となる基本的教養を学習する「基幹科目」、専攻する専門分野を学ぶうえで基礎となる知識と技能を習得する「展開科目」、外国語および保健

体育などの「共通科目」からなる全学教育を受講します。全学教育では、小人数クラスで、総合大学である東北大学の全学部と全研究所の教員が開講する「基礎ゼミ」が必修で、広い学問領域から自分の専攻を超えて授業を選択します。一方、入学直後から最初の専門教育科目として、最新の歯学の概要にふれる「歯学概論」と歯科診療の現場を体験する「歯科臨床入門」との2つの導入科目を受講します。2年生からはコア科目と呼ばれる歯科医師となるために必須の専門教育科目が始まります。学生は、まず、解剖学、組織学、生理学、生化学、細菌学、免疫学、薬理学、病理学といった一般医学と同等の内容を含む基礎系科目を学び、その上で、口腔解剖学、口



腔組織発生学、口腔生理学、口腔生化学、口腔細菌学、歯科薬理学、口腔病理学、歯科生体材料学などの歯科医学教育独自の基礎系科目を履修します。さらに3年生からは、歯科保存学、予防歯科学、小児歯科学、矯正歯科学など、臨床系科目も始まります。基礎系、臨床系とも、講義に加えて自ら体験して学習する実習の割合が高いことが歯学部のコア科目授業の特徴です。



授業紹介



「人体の細胞と組織」 「口腔の細胞組織と発生」

組織学授業
「人体の細胞と組織」では、人体において、多種多様な細胞が秩序よく配列さ

れて組織や臓器をつくり、さらに個体を構成することを学びます。口腔組織発生学授業「口腔の細胞組織と発生」では顎、顔面および口腔と歯の組織の構成とでき方について、より詳しく学習します。どちらの授業でも、講義に加えて、顕微鏡で組織標本を観察する実習の時間があり、実際に自分の目で細胞や組織の特徴を捉え、所見をまとめる力を養います。

笹野泰之教授



「人体の構造」「歯のかたち」

2年次に人体、特に口腔領域の形について学びます。「人体の構造」では人体解剖の講義や実習により全身の仕組みや役割を、「歯のかたち」では実物の歯（抜去歯）の観察によりヒトの歯の形を理解します。これらの講義や実習によって、歯科医師として最も基礎的で必須の知識を身につけることができるとともに、人の生と死や医の倫理についても考えます。

市川博之教授



「くすりの科学」

3年次「くすりの科学」では、歯科で頻繁に用いられる化学療法薬、抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消毒薬のみならず、末梢神経系・中枢神経系、循環器系、呼吸器系、消化器系に作用する薬物も含め、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの作用と作用機序を学びます。この科目を理解するには、2年次から学ぶ専門基礎科目の知識が必要です。

若森実教授



「歯科生体材料の科学」

歯は、自然治癒や再生が難しいため、歯科治療の多くは人工の材料を使用してかむ機能を回復させます。歯科生体材料学分野では、最先端の材料科学を駆使して歯科修復材料からインプラント材料まで新しい歯科生体材料の開発やこれらの材料の口腔内環境下における劣化と安全性などを研究しています。大学教育では、歯科の治療に用いられている歯科材料全域についての講義や実験を担当しています。

高田雄京准教授



(Curriculum)

4、5年次のカリキュラム

4、5年生は最も多く臨床科目を学ぶのみならず、これまでに習得した知識と技術を統合していく時期に当たります。4年生のコア科目では、歯科医師として診療をしていくのに必要な臨床科目が最も多く開講されます。ここで学生は、口腔の様々な疾患のメカニズムやその診断・治療法を学びますが、各科目には講義だけではなく模型実習が多く含まれています。5年生は東北大学歯学部独自のアドバンス科目が展開される学年で、最先端の研究成果に基づいた新たな時代の「口の科学」に関する様々な講義が行われると共に、これまでに学んだ知識・技術を統合していくために「歯学臨床ゼミ」、「合同講義」や「臨床シミュレーション実習」などが開講されます。



特に平成25年度より新たな試みとして、統合型病態模型を用いた模型実習を「臨床シミュレーション実習」に導入しました。これにより、これまで各科目で行われていた実習に関する知識・技能を有機的に連携させるばかりでなく、総合的診断力や問題解決能力を涵養することを目指します。また、臨床実習に必要な知識・技術・態度が十分に備わっているかを確認するためのテストであるCBTとOSCEが5年生の7月に実施されます。これは全国の歯学部学生に対して行われるものですが、これをパスしないと臨床実習に進むことはできません。またこれからの歯科医師は全身状態や疾患についての深い知識が要求されますので、5年生は「隣接医学」として内科学や耳鼻咽喉科学などを学ぶことになっています。さらに本学では、5年生の段階で歯学研究者としての基本態度を学ぶ「歯学基礎演習・基礎研究実習」を実施し、大学院レベルでの研究を体験すること



ができます。この授業では、学生一人ひとりが歯学部の基礎系分野を選択して研究室に所属し、約8ヶ月間に渡り、英語の学術論文の読解指導を受け、さらに研究の実践を学びます。この間、学生は教員にほとんどマンツーマンで接し、研究者や高度専門職業人として必要な「研究する心(リサーチマインド)」と「常に考える精神」を身につけます。この授業をきっかけに、臨床を科学する重要性を学ぶと共に多くの学生が研究に関心を抱き、卒業後に大学院進学を目指しています。

授業紹介



「口腔修復学Ⅰ」

口腔修復学Ⅰでは、保存修復学の講義と実習を行います。講義は総論と各論に分かれ、総論では保存修復に必要な前処置、窩洞形態の一般法則、徐痛法、歯髄保護、仮封、窩洞形成法を学習します。各論では、審美修復(接着性コンポジットレジン修復、ポーセレンインレー、漂白法)と金属材料によるインレー修復法を習得します。実習では、基本的なレジン修復症例とメタルインレー症例をシミュレートし治療姿勢、器材の使用法、窩洞形成法、修復法を習得します。

齋藤正寛
教授



「口腔病態外科学Ⅱ・Ⅲ」

口腔外科は、口腔および顎顔面領域の先天異常、後天性の欠損や損傷、口腔に現れるさまざまな疾患および全身疾患の一症状として口腔や顔面に異常をしめす疾患などの診断と治療および障害された形態と機能の外科的な回復を扱う学問であり、医科と歯科の境界に位置し、医科と歯科の双方の総合的な知識が必要となります。本講義では歯科医師として必要となる、これら口腔に現れる様々な疾患の種類、診断と治療法について最新の知見を教授します。

山内健介
准教授



「口腔保健発育学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

口腔保健発育学では、2つの学年を通して、ひとの誕生から成人期までの口腔機能の健全な発育の誘導と支援について学びます。子どもの健全な口腔の育成は、生涯を通じた健康の基となり、「食べる」「話す」「笑う」の生きる力の源となりますので、子どもたちを医療者として慈しみ健康を支援できるようにしっかり学んで下さい。本講義は、予防歯科学分野、小児発達歯科学分野、顎口腔矯正学分野、障がい者歯科治療部が担当します。

小関健由
教授



5、6年次のカリキュラム

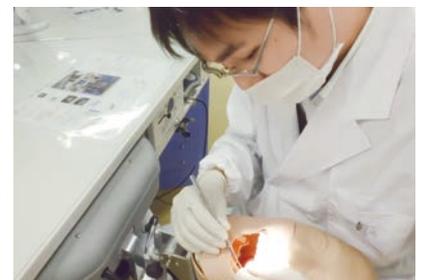
臨床実習は歯学部教育の最終課程と位置づけられています。5年生後半から6年生にかけての1年数ヶ月、実際に患者さんの治療を担当することにより、歯科医師としての知識・技術・態度についての総仕上げを行います。本学部の臨床実習は、建学以来「人間尊重」・「人間単位」の実習形態を追求し、その結果、「一口腔一単位」の臨床実習が行われてきました。「一口腔一単位」の意味するところは、単に個々の歯を治療の対象とするのではなく、人を対象として全人的見地から口の中

を診査、診断し、包括的医療を実践する診療形態です。患者さん中心の歯科医療、患者さんに対する畏敬や思いやり、倫理観など医療人として身につけるべき基本を学び、併せて自己研鑽すなわち「人間形成」に努めるという教育理念がここに 있습니다。この形態は東北大学歯学部独自のものであり、他大学からも高い評価を受け、現在では多くの歯学部・歯科大学で取り入れられています。

臨床実習では、約100名の教員（歯科医師及び医師）が実際の指導に当たっ



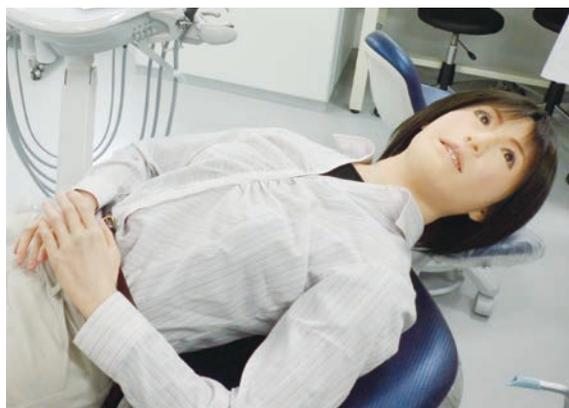
ています。学生数に比べて教員数が多いことも本学部の特徴であり、学生にとっては恵まれた環境のなかで実習を受けることができます。



COLUMN

歯科実習用 人型ロボット SIMROID® (シムロイド)

表情豊かで、おしゃべりなロボットです。なかなかの美人です。痛みや不快さを与えると、人と同じ反応をします。しっかりとした技術を練習しましょう。国立大学では唯一です。





東北大学 病院

Tohoku University Hospital



東北大学病院の紹介

東北大学病院は1817年に創設された仙台藩医学校を根源とし、1915年に東北帝国大学医科大学附属病院として開設された、歴史と伝統のある病院です。入院する患者さんのベッド数は全国の国立大学病院でトップクラスの規模を誇っており、患者さんは東北地方のみならず、全国さらには海外からも訪れます。当院は国から「特定機能病院」に指定されており、高度な先進医療の提供だけでなく、高度な医療技術の開発や研修を使命としています。また、全国で初めて承認された「臨床研究中核病院」の一つでもあり、「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」を基本理念に、最先端の医療技術の研究開発を推進しています。

このように由緒ある先進的な総合病院のなかで、歯科診療部門は11の専門診療科、6つの特殊診療部と3つの高度治療センターで構成されています。歯科は外来棟で3つのフロアにまたがっており、約140台の治療用チェアを有しています。また、病棟には歯科で手術を受けて入院する患者さんのベッドが約30床あります。歯科診療部門には約260名の歯科医師が働いており、歯科衛生士、歯科技工士、医師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、言語聴覚士、管理栄養士など、たくさんの職種と協働してチーム医療を行っています。このような体制のもと、歯科診療部門では1日あたり約600名もの患者さんの診療を行っています。

当院は、全国的に見ても「他職種連携」と「医科歯科連携」が高いレベルで進んでいる大学病院です。医科と歯科が一つの病院建物のなかで緊密に連携しているため、患者さんに高度で総合的な医療を提供できる点が当院の特徴と言えます。日本は超高齢社会を迎え、歯科を受診する患者さんが全身の健康に問題を抱えている場合も増えてきました。口の病気の原因の多くは口そのものがありますが、全身の病気が原因となって口の病気として現れる場合も少なくありません。また、口の病気や歯を失うことで、全身の病気を引き起こす場合もあります。さらに、最近の研究から、医科での手術の前後に口の清掃や歯科治療を行うことで、手術後の合併症が軽減することがわかってきました。つまり、歯科がますます医科と連携して患者さんの全身の健康回復や生活の質の維持・向上に貢献する時代となっているのです。

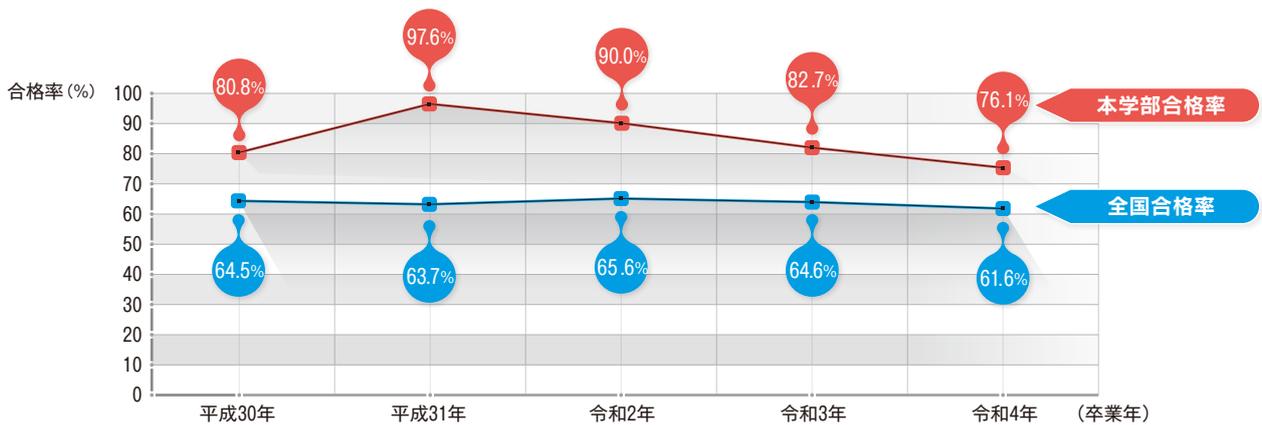
東北大学歯学部は、5年次から当院の臨床現場で、スチューデントデンティストとして歯科医師に求められる知識・技術・態度を学びます。社会の要請に応じる歯科医師になるためにも、他職種と協働し、緊密な医科歯科連携を学ぶことはとても重要です。私たちは、学生達が医療チームの一員として患者さんから多くを学び、地域のみならず世界の歯科医療に貢献し、歯科医学の発展を牽引するリーダーとなることを願いながら、臨床教育に取り組んでいます。



東北大学病院 総括副院長
歯科診療部門長

江草 宏 教授
(咬合修復科)

歯科医師国家試験合格状況



卒業後の進路

卒業後は、大学病院等の研修医を経て、大学院進学、開業医勤務等、ほぼ全員が歯学研究または歯科医療に携わっています。



*多くの場合、学会認定専門医は数年間、指導医の元で研修することが必要となります。大学院生として指導医の元に就学すると、専門医取得が容易となります。



歯学部4年 小波 橘平さん

勉強にサークル活動、 充実した環境で意欲的に活動できます。

1年次では、他学部の学生と共に一般教養をメインに学びます。2年次からは歯学部の専門科目が徐々に始まり、3年次では基礎系科目に加え臨床系科目も始まり、専門科目が主となってきます。コロナ禍ではオンラインも交えた講義となっていますが、逆にその特性を活かしながら日々勉強に励んでいます。東北大学歯学部の教員の方たちは、教科書に書いてあることだけでなく、ご自身の研究、最新の研究なども交えながらとても興味深い授業をしてくださるので、

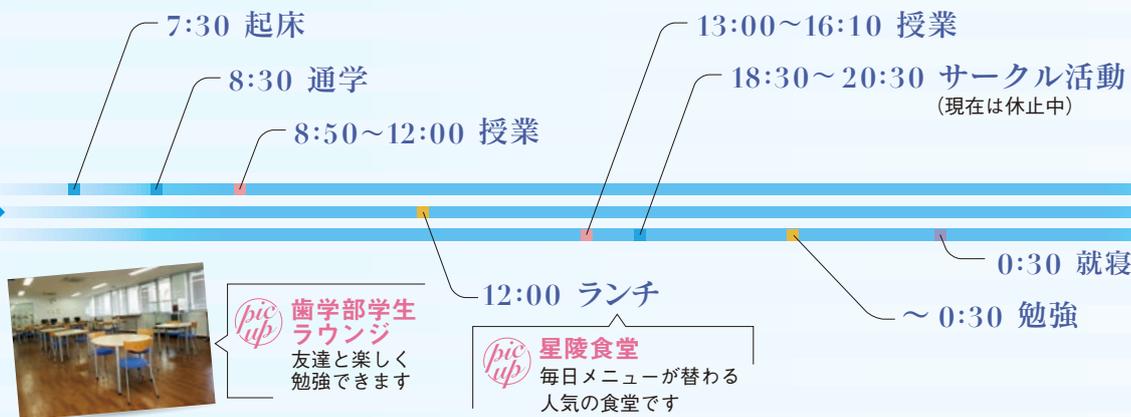
幅広い知識を得られるとともに意欲的に勉強することが出来ます。質問対応なども非常に手厚いです。徐々に始まってきた実習も、制限の中ではありますができる限りのことをしながらより良いものにしていきたいと考えています。

サークル活動では、歯学部バレーボール部に所属しています。現在はコロナで練習の出来ない日々が続いてはいますが、学業とサークル活動を両立することで得られる経験も大きいものがあるので、新入生の皆さんにもサークル活

動にはぜひ挑戦してほしいなと思います。

東北大学歯学部には、優秀な教員の方たちや学生たち、そして設備の整った周辺施設など学ぶにはもってこいの環境がそろっており、学校生活を送りながらその充実ぶりをひしひしと感じています。1年次の段階から、興味のある学生は研究室の見学ができるなど個々の意欲にも柔軟に対応してまいります。東北大学歯学部では、きっと充実したキャンパスライフが待っていますよ！

Schedule
スケジュール



歯学部 サークル 紹介

大学のサークルの他に、
歯学部学生だけで構成される
サークルもあります。



⑩ 弓道部



⑨ 軟式
庭球部

⑪ サッカー部



⑫ 硬式庭球部



⑬ 準硬式
野球部



⑭ ゴルフ部



歯学部5年 笹 清花さん

歯科医師の夢に向け、日々努力しています。

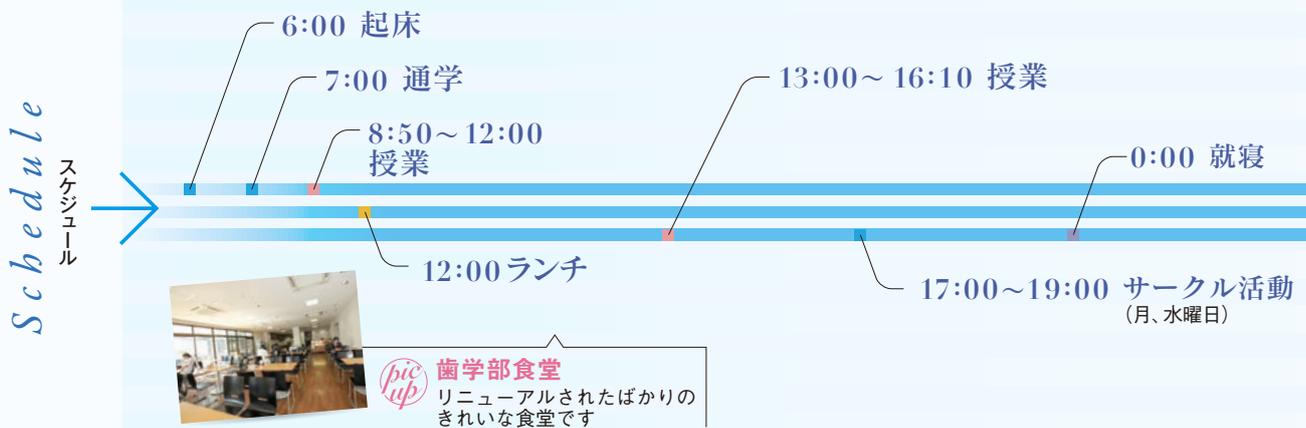
1年生の間は、他学部の学生とともに川内キャンパスで全学教育科目を履修します。学部の枠にとらわれず様々な科目について勉強することで、幅広い知識を得ることができます。また他学部の学生と接することで、多様な視点を獲得することができます。2年生になると、徐々に専門科目の講義が主になってきます。はじめから歯や口のことだけを勉強するのではなく全身の勉強から始めるため、ヒトの体についてよく理解した上で、口腔が全身の中でどのよ

うな役割を担うのか理解することができます。

3、4年生になると臨床系科目の勉強が始まり、2年生までに習ったことをもとに具体的な症例や治療などについて学びます。実習では、はじめて歯の模型や治療に用いる材料等に触れ、歯を削ったり補綴装置を作成したりします。新たに学ぶことや経験することが多く戸惑うことも多々ありますが、歯科医師としてのイメージが徐々に沸き意識が高まってきているのを感じます。

サークルでは、準硬式野球部のマネージャーとして活動を行っています。大学に入るまでマネージャー経験はなかったのですが、素敵な仲間にも恵まれながら楽しく活動することができています。大会でプレーヤーさん達が輝けるよう、全力で練習をサポートしていきたいと思います。

コロナ禍で様々な活動が制限されている中ですが、その中でも出来ることを見つけ、仲間と切磋琢磨しながら充実した学生生活を送ってきたいと思います。



④ 水泳部



④ 卓球部



④ バasketボール部



④ 陸上部



④ 軽音部



④ 剣道部



④ バレーボール部



④ 歯科医療研究会



④ バドミントン部



ホンネで語る。

OB座談会

東北大学歯学部で6年間学び、卒業した後に現在、医員として臨床や研究に励む皆さんに、歯学部で学んだ感想や学生生活、これからの目標などについて語っていただきました。



Q

歯学部を選んだ理由

佐藤 私は高校時代に1年間アメリカに留学しており、そのホストファミリーの方が歯科医でした。ホームステイで歯科医の仕事や家庭を直に触れる機会があり、ライフワークバランスが非常に良く、かつ笑顔につながる仕事だと思い歯科医になろうと決めました。東北大学は地元にある大学で、充実した海外研修や留学プログラムがあり、それらに是非参加したいと思い、この大学を選びました。

木之村 佐藤さんと被ってしまいますが、地元の大学ということ、私は手に職を付けたいと思い歯学部を目指しました。

Q

東北大学で学んで良かったこと

佐藤 東北大学は留学やサークル活動など、学生の主体性を重んじている大学と感じました。他学部の方や留学生との交流も盛んで、自分のやりたい・進みたい分野を深めるのに最適な環境で自分自身を伸ばすことができたと感じています。

木之村 東北大学は総合大学で、歯科大とは違い、1年生と2年生の時は川内キャンパスで学びます。他学部の人とも交流があるため、歯科だけではなく色々な事が学べる大学だと思いました。また将来歯医者として働くにしてもコミュニケーションや一般教養は大事なので、そういう所を学べて良かったなと思っています。

成田 東北大学の学生のレベルが非常に高いことが印象的です。僕は学生の頃、起業家のサークルに所属して他学部の学生などと一緒に積極的に活動していました。「世界を変えてやろう」という意識の高い人との交流は他の大学ではあまり見かけないのかなといった印象です。

Q

学生時代の思い出 (印象に残っていること)

佐藤 東北大学に来た留学生のチューターとして共に様々な所に行く機会がありました。台湾出身の留学生と一緒に蔵王にスキーに行ったのが思い出として特に印象深いです。その留学生は雪を見たことなかったので初めての雪景色にすご

く興奮していました。私も自然でリフレッシュをしながら、日本や歴史について英語でわかりやすく伝える様に工夫し、楽しかったのを覚えています。

木之村 私は学生時代、水泳部に所属していました。歯学部の部員だけではなく、医学部水泳部の方達と一緒に練習をしたり、大会に出場したりする機会があり、他学部との繋がりが強いと思いました。今でも、大学病院で勤務していると、部活の先輩や後輩とすれ違う環境なので、同じ学部だけではなく、友達や先輩後輩が増えたことはいい思い出だと思います。

成田 先程話したとおり起業活動と研究活動とサークルと留学の4つが思い出です。東北大学には全学教育のSAPと呼ばれる留学プログラムがあり、大学1年生の頃に、SAPでカリフォルニア大学に1ヶ月くらい留学したのが印象的でした。僕が参加したプログラムは単に英語を学ぶだけではなく、現地の人とボランティア活動を通してコミュニケーションを図るというプログラムで、実際にカリフォルニア州のいろんな場所に伺い、例

歯学部で 学ぶ魅力



例えば恵まれない子ども達に食事を提供したり、色々なイベントの設営などを通して英語を勉強出来ました。

Q

留学について

佐藤 参加した留学プログラムには全て奨学金が充実しており歯学部独自の留学プログラムや、成田さんが行っていた全学の留学プログラムなどの選択肢が多かったです。

成田 そうですね。

佐藤 クラスの5人に1人くらいは留学していました。

木之村 歯学部独自のプログラムも合わせるともう少し多いと思います。

Q

仙台という環境について

木之村 私は出身が仙台ですが、東京ほど都会というわけでもなく、すごい田舎というわけでもなく、ある程度駅前であれば何でも揃っていて過ごしやすい環境だと思います。

佐藤 私も丁度いい都市だと思います。山、海にも近く、レジャーなどで勉強の気晴らしにも最適な環境だと思います。

成田 僕は秋田県出身です。秋田と比べるとなんでもあり、仙台に住み始めて8年くらい経ちますが、何不自由無く生活出来ていて楽しい場所です。まず交通の便が全然違います。秋田には高校生までしか住んでいませんでしたが、どこに行くにも車でした。仙台だとある程度電車や自転車でいきたい所に行けます。

ちょっと出掛けると有名な観光地にも繋がっていて、そういった所が魅力的だと思います。

Q

将来の目標

佐藤 海外を見据えているいろいろな研究や臨床に取り組んでいきたいと思っています。また先にも話しましたホストファミリーの方と共に世界を舞台にしたいというのが夢でもあり、目標でもあります。学部生の留学経験を活かし、一人でも多くの人の笑顔を作っていきたいと思っています。

成田 今は矯正歯科医を目指して大学院に入り、それに関する勉強と研究を精一杯やろうと思っています。ずっとやりたかった矯正歯科、大学院に進学出来て、将来も矯正歯科の診療で多くの人のお口の中の歯並びをキレイにしたいという目標もあるのですが、研究を通して歯列矯正の分野に大きな影響を与えるような人になりたいと考えています。

木之村 私は補綴系の分野に所属しています。補綴は、入れ歯や被せ物を専門にする分野です。大学院に進んで、補綴の専門医の資格を取り専門医になるのが目標です。大学で研究をしながら、研究も臨床も両方出来る専門医になりたいと思っています。

Q

東北大学歯学部を目指す 受験生へのメッセージ

佐藤 やればやるほど自分でチャンスを開拓する大学だと思います。留学や研究などの機会が多い総合大学だからこそ、他学部との繋がりや共同研究などを通して

で、成長するのは自分次第と思いました。大学でやりたいことが決まっている高校生やまだ具体的な方向を決めかねている人にも東北大学での学びは、将来の大きな宝物になると思います。

木之村 東北大学で学ぶ事はもちろんですが、特に歯学部だと人数も少ないので、先輩方や同期との繋がりを大事に出来るし、自主性を大事にしてくれる大学だと思います。自分で学びたい事を学べるし、アルバイトや部活なども自分で挑戦出来る大学だと思います。

成田 歯学部はマイナーな学部なので、基本的に両親が歯科医で幼い頃から歯科医になりたいと思って入学する人以外は医学部医学科に点数が少し足りなくて歯学部に来る人が多いんです。でも僕は歯学部で6年間学んで歯科医師免許をとって、まだ駆け出しですが歯科医としての魅力をすごく感じていることができています。入試を受ける前の学生には「歯科医ってどういう仕事？」というのをインターネットや本で調べて興味をもってもらいたいです。すごく歯学部の魅力が伝わるとと思います。そういう方に是非入学してきてほしいです。



医員

木之村 史織さん



医員

成田 昂平さん



医員

佐藤 友美さん



ACCESS / 仙台駅からの交通手段

仙台市営バスご利用の場合

仙台駅西口バスターミナル

⑨番乗り場から

「東北大学病院経由 子平町 → 北山循環」乗車、
「歯学部・東北会病院前」下車(約20分)、徒歩1分

⑬番乗り場から

「山手町経由 桜ヶ丘七丁目」乗車、
「歯学部・東北会病院前」下車(約20分)、徒歩1分

⑭番乗り場から

「北山トンネル・中山経由 北中山・西中山」乗車、
「歯学部・東北会病院前」下車(約20分)、徒歩1分

⑩、⑮番乗り場から

「大学病院経由」乗車、
「大学病院前」下車(約20分)、徒歩5分

地下鉄ご利用の場合

「泉中央行き」に乗車、「北四番丁駅」で下車、
北口2番出口より八幡町方面へ徒歩約15分

東北大学大学院歯学研究科・歯学部

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号

TEL:022-717-8248 FAX:022-717-8279

H P: <http://www.dent.tohoku.ac.jp/>

E-mail: den-kyom@grp.tohoku.ac.jp